

参考文献

第一章 市の概要と地形・地質

- 石田史朗・横山卓雄「近畿・東海地方の鮮新・更新統火 山灰層序、及び古地理・構造発達史を中心とした諸問題―近畿地方の新期新生代層の研究、その十」〔『第四紀研究』八号、三一〜四三、一九六九年〕
- 片岡香子・吉川周作「三重県鈴鹿川流域の段丘構成層の層序・編年―火山灰稀産地域での段丘編年の試み」〔『第四紀研究』三六号、一九九七年〕
- 高橋啓一「脊椎動物化石とその起源」〔『アーバンクボタ』三七号、一九九八年〕
- 竹原平一・森下晶・糸魚川淳二「名古屋港の地盤」〔名古屋港管理組合、一九六一年〕
- 樽野博幸「東海層群の哺乳類化石」〔『豊橋市自然史博物館研究報告』一一号、二〇〇一年〕
- 中山勝博・吉川周作「東海層群の古地磁気層序」〔『地質学雑誌』九六卷、一九九〇年〕
- 南木睦彦・松葉千年「三重県多度町から産出した約18,000年前の大型植物遺体群集」〔『第四紀研究』二四号、一九八五年〕
- 松岡敬二「東海層群の淡水貝類化石」〔『豊橋市自然史博物館研究報告』一一号、二〇〇一年〕
- 宮村学・吉田史郎・山田直利・佐藤岱生・寒川旭「亀山地域の地質」〔『地域地質研究報告（五万分の一図幅）』地質調査所、一九八一年〕
- 吉田史郎・高橋裕平・西岡芳晴「津西部地域の地質」〔『地域地質研究報告（五万分の一図幅）』地質調査所、一九九五年〕
- 『三重県亀山市 市勢要覧E-Book』（亀山市、平成二二年度版）
- 『亀山市史 自然編 電子版』第一章第三節〜第六節（亀山市、二〇〇九年）
- 『新修名古屋市史 第8巻 自然編』（名古屋市、一九九七年）
- 『多度町史 自然』第2編各論IA（多度町、一九九五年）

第二章 原始の亀山市域

伊藤純「鱒付埴輪の製作技法」〔『古代文化』四六卷六号、一九九六年〕

高橋克壽「埴輪生産の展開」(『考古学研究』四一卷二号、一九九四年)
都出比呂志「日本古代の国家形成論序説―前方後円墳体制の提唱―」(『日本史研究』三四三号、一九九一年)

中川千恵美「伊勢・伊賀における埴輪製作集団の動向」(『三重大史学』二号、二〇〇二年)

中野綾子「宝塚古墳における円筒埴輪の製作技法と配置―埴輪工人集団の考察から―」(『三重大史学』一一号、二〇一一年)

広瀬和雄『前方後円墳国家』(角川書店、二〇〇三年)

穂積裕昌「伊勢における甕窯出現以降の埴輪生産―その系統と工人編成―」(『考古学フォーラム』一七、二〇〇五年)

三重大学歴史研究会原始古代史部会「亀山市木下古墳の発掘調査概要」(『考古学雑誌』六七巻三号、一九七二年)

矢野健一「押型文土器の起源と変遷に関する新視点」(『研究紀要』二号、三重県埋蔵文化財センター、一九九三年)

第三章 古代国家形成期の亀山市域

足利健亮「平安京から伊勢神宮への古代の道」(上田正昭編『探訪 古代の道 第二巻 都からのみち』法蔵館、一九八八年)

新井喜久夫「固関の国」の律令制支配」(浅香年木編『古代の地方史 四 東海・東山・北陸編』朝倉書店、一九七八年)

新井喜久夫「古代の関―壬申の乱と三関の成立」(森浩一・門脇禎二編『壬申の乱』大巧社、一九九六年)

井後政晏「川俣神社」(式内社研究会編纂『式内社調査報告 第七巻 東海道二』皇學館大學出版部、一九七七年)

大西源一「三重県下に於ける駅路の変遷(第一回)」(『三重県史談会々志』三一―〇、一九一二年)

岡田登「伊勢大鹿氏について(上)(下)」(『史料』一三五・一三六号、皇學館大學史料編纂所、一九九五年)

喜田新六「上代の関の研究」(『歴史地理』五七巻四号、一九三一年)

- 北村稔「壬申の乱地理新考(三)」(『史迹と美術』五六輯一〇、一九八六年)
- 久保文武「大和街道の歴史的特性」(三重県教育委員会編『大和街道・伊勢別街道・伊賀街道―歴史の道調査報告書―』三重県教育委員会、一九八四年)
- 倉本一宏『日本書紀』壬申紀の再構築」(あたらしい古代史の会編『王権と信仰の古代史』、吉川弘文館、二〇〇五年)
- 倉本一宏『戦争の日本史2 壬申の乱』(吉川弘文館、二〇〇七年)
- 胡口靖夫「三関について―陣法から見て―」(『近江朝と渡来人―百濟鬼室氏を中心として―』雄山閣出版、一九九六年)
- 小林秀樹「概説 近世『のぼの』考」江戸時代の人々が見たヤマトタケル墓」(市政施行四十五周年記念『第十七回企画展 近世「のぼの」考」江戸時代の人々が見たヤマトタケル墓』亀山市歴史博物館、二〇〇〇年)
- 佐藤宗諄「不破関の歴史」(『美濃不破関』岐阜県教育委員会・不破関跡調査委員会、一九七八年)
- 柴田博子「鈴鹿関と不破関―壬申の乱とのかかわりをめぐって―」(佐藤宗諄編『日本の古代国家と城』、新人物往来社、一九九四年)
- 鈴鹿市考古博物館編『白鳥塚1号墳』(鈴鹿市考古博物館、二〇〇六年)
- 瀧川政次郎「華蓋考」(『増補新版日本社会経済史論考』名著普及会、一九八三年)
- 舘野和己「律令制下の交通と人民支配」(『日本古代の交通と社会』塙書房、一九九八年)
- 津田左右吉『日本古典の研究 上』(『津田左右吉全集 第一巻』岩波書店、一九六三年)
- 直木孝次郎『壬申の乱 増補版』(塙書房、一九九二年)
- 西宮一民「「倭建命」の段の文脈」(同『古事記の研究』、おうふう、一九九三年)
- 平野邦雄「あげばりつくり 幄作」(『国史大辞典 第一巻』吉川弘文館、一九七九年)
- 松本政春「古代三関考―停廢記事をめぐって―」(同『律令兵制史の研究』、清文堂出版、二〇〇二年)
- 望月幹夫『日本の美術 347 器材はにわ』(至文堂、一九九五年)
- 山中章「伊勢国北部における大安寺墾田地成立の背景」(『ふびと』五四号、二〇〇二年)

吉田晶「県造小論―伊勢神宮との関係を中心として―」（岸俊男教授退官記念会編『日本政治社会史研究 上』塙書房、一九八四年）

吉村利男「明治期の能褒野墓治定と修補」（『三重の古文化』八一号、二〇〇〇年）

文化庁監修『国宝 高松塚古墳壁画』（中央公論美術出版、二〇〇四年）

『伊賀町史』第二章第一節（伊賀町、一九七九年）

『四日市市史 第十六卷 通史編 古代・中世』中世編第一章第三節（四日市市、一九九五年）

第四章 律令制下の亀山市域

岡田精司「近代の式内社―その創出の実態―」（『ふびと』四五号、一九九三年）

岡田登「伊勢大鹿氏について（下）」（『史料』一三六号、一九九五年）

岸俊男「元明太上天皇の崩御―八世紀における皇権の所在―」（『日本古代政治史研究』塙書房、一九六六年）

岸俊男『藤原仲麻呂』（吉川弘文館、一九八七年）

喜田新六「上代の関の研究」（『歴史地理』五七巻四号、一九三二年）

笹山晴生「授刀舍人補考―和銅元年天皇御製歌の背景―」（同『日本古代衛府制度の研究』東京大学出版会、一九八五年）

佐藤宗諄「不破関の歴史」（『美濃不破関』岐阜県教育委員会・不破関跡調査委員会、一九七八年）

陳良偉「洛陽隋唐城合璧宮遺址的初步調査」（『三重大史学』七号、二〇〇七年）

永田英明「奈良時代の王権と三関―三関停廢の歴史的意義―」（今泉隆雄先生還暦記念論文集刊行会編『今泉隆雄先生還暦記念論文集 杜都古代史論』

仲見秀雄「鈴鹿・河曲郡の条里制」（弥永貞三・谷岡武雄編『伊勢湾岸地域の古代条里制』東京堂出版、一九七九年）

叢』今野印刷、二〇〇八年）

野村忠夫「律令三関の称呼をめぐる―美濃不破関跡の発掘調査にあたっての文献的一検討―」（『日本歴史』三三四、一九七四年）

八賀晋『伊勢国鈴鹿関に関する基礎的研究 研究成果報告書』（平成三年度文部科学省科学研究費補助金（一般研究A）、一九九二年）

村居喜道「古代伊勢国の瓦生産と供給―軒瓦製作技法による考察―」(『古代東海と奈良時代王権』考古学研究会東海例会実行委員会、二〇〇八)

山中章「久留部官衙遺跡と二人の天皇」(『久留部官衙遺跡と朝明郡』久留部官衙遺跡を考える会、二〇〇八年)

渡辺晃宏『日本の歴史 04 平城京と木簡の世紀』(講談社学術文庫、二〇〇九年)
和田萃「チマタと橘―オトタチバナヒメ入水伝承を手掛りに―」(『日本古代の儀礼と祭祀・信仰 中』、塙書房、一九九五年)

『菟上遺跡埋蔵文化財調査報告―本文編―』(三重県埋蔵文化財センター、二〇〇五年)

『新修大津市史 第一巻 古代』第三章第五節(大津市、一九七八年)

『特別展図録 暫ク関東二往カントス―聖武天皇の道―』(鈴鹿市考古博物館、二〇〇四年)

第五章 摂関期・院政期の亀山市域

石井進「二―一三世紀の日本―古代から中世へ」(『石井進著作集 第三巻 院

政と平氏政権』(岩波書店、二〇〇四年)

稲本紀昭・駒田利治・勝山清次・飯田良一・上野秀治・西川洋『三重県の歴史

県史24』(山川出版社、二〇〇〇年)

上横手雅敬『平家物語の虚構と真実 上』(塙新書、一九八五年)

榎村寛之『伊勢斎宮と斎王』(塙書房、二〇〇四年)

大津透『日本の歴史 06 道長と宮廷社会』(講談社学術文庫、二〇〇九年)

加藤友康編『日本の時代史 6 摂関政治と王朝文化』(吉川弘文館、二〇〇二年)

金子恵里子「鈴鹿御前・立烏帽子を巡る伝承世界」(『伝承』二号、二〇〇六年)

川合康『鎌倉幕府成立史の研究』(校倉書房、二〇〇四年)

木下良監修・武部健一著『完全踏査古代の道 畿内・東海道・東山道・北陸道』(吉

川弘文館、二〇〇四年)

小島鉦作「伊勢公卿勅使駅家役と社寺領荘園」(『伊勢神宮史の研究 小島鉦作著作集 第二巻』吉川弘文館、一九八五年)

小山靖憲「古代荘園から中世荘園へ」(同『中世寺社と荘園制』塙書房、一九九八

年)

神英雄編著『阿須波道と垂水頓宮―国史跡垂水斎王頓宮跡及び周辺地域の総合調査報告書―』(滋賀県土山町、一九九六年)

高橋昌明『増補新訂 清盛以前―伊勢平氏の興隆―』(平凡社ライブラリー、二〇一一年)

角田文衛『平家後抄(上)』(講談社学術文庫、二〇〇〇年)

角田文衛『平家後抄(下)』(講談社学術文庫、二〇〇〇年)

斎宮歴史博物館編『特別展 斎王群行と伊勢への旅』(斎宮歴史博物館、一九九八年)

西村隆「平氏「家人」表―平氏家人研究への基礎作業―」(『日本史論叢』一〇輯、一九八三年)

仁藤智子『平安初期の王権と官僚制』(吉川弘文館、二〇〇〇年)

野口実「平貞盛の子息に関する覚書―官歴を中心として―」(同『中世東国武士団の研究』高科書店、一九九四年)

細川重男「得宗家執事長崎氏」(同『鎌倉政権得宗専制論』吉川弘文館、二〇〇〇年)

美川圭『白河法皇―中世をひらいた帝王―』(NHKブックス、二〇〇三年)

元木泰雄編『日本の時代史 7 院政の展開と内乱』(吉川弘文館、二〇〇二年)

元木泰雄『保元・平治の乱を読みなおす』(NHKブックス、二〇〇四年)

森幸夫「平・長崎氏の系譜」(安田元久編『吾妻鏡人名総覧―注釈と考証―』吉川弘文館、一九九八年)

山田雄司「鈴鹿峠と坂上田村麻呂」(『三重大史学』八号、二〇〇八年)

吉川真司編『日本の時代史 5 平安京』(吉川弘文館、二〇〇二年)

『美濃不破関』(岐阜県教育委員会・不破関跡調査委員会、一九七八年)

第六章 鎌倉時代の亀山市域

飯倉晴武「九条家領の成立と道家惣処分状について」(同『日本中世の政治と史料』吉川弘文館、二〇〇三年)

石母田正「鎌倉幕府一国地頭職の成立―鎌倉幕府成立史の一節―」(『石母田正著

- 作集 第九卷 中世国家成立史の研究』岩波書店、一九八九年)
- 市本芳三「日置荘遺跡出土瓦の分析」(『日置荘遺跡 分析・考察編』大阪文化財センター、一九九五年)
- 稲本紀昭「伊勢国」(網野善彦・石井進・稲垣泰彦・永原慶二編『講座日本荘園史 6 北陸地方の荘園 近畿地方の荘園Ⅰ』吉川弘文館、一九九三年)
- 稲本紀昭・駒田利治・勝山清次・飯田良一・上野秀治・西川洋『三重県の歴史 県史24』(山川出版社、二〇〇〇年)
- 植野浩三「関氏正法寺山荘跡」(水野正好編『図説発掘が語る日本史 4 近畿編』新人物往来社、一九八五年)
- 上原真人「平瓦製作技法の変遷」(今里幾次先生古希記念論文集刊行会編『今里幾次先生古希記念 播磨考古学論叢』今里幾次先生古希記念論文集刊行会、一九九〇年)
- 大山喬平『日本の歴史 第九卷 鎌倉幕府』(小学館、一九七四年)
- 川合康『鎌倉幕府成立史の研究』(校倉書房、二〇〇四年)
- 川合康『日本中世の歴史 3 源平の内乱と公家政権』(吉川弘文館、二〇〇九年)
- 駒田利治「関氏正法寺山荘跡」(『日本城郭大系 第一〇巻』新人物往来社、一九八〇年)
- 佐藤進一『増訂 鎌倉幕府守護制度の研究―諸国守護沿革考証編―』(東京大学出版会、一九七一年)
- 角田文衛『平家後抄(上)』(講談社学術文庫、二〇〇〇年)
- 角田文衛『平家後抄(下)』(講談社学術文庫、二〇〇〇年)
- 中井均「中世の居館・寺そして村落」(石井進・萩原三雄編『中世の城と考古学』新人物往来社、一九九一年)
- 中尾正治・福島歌子『正法寺山荘物語』(関町教育委員会、一九八六年)
- 西村隆「平氏「家人」表―平氏家人研究への基礎作業―」(『日本史論叢』一〇輯、一九八三年)
- 福島金治「金沢北条氏の被官について」(同『金沢北条氏と称名寺』吉川弘文館、一九九七年)
- 藤沢典彦『中・近世瓦の研究―元興寺編―』(元興寺文化財研究所、一九八二年)

森茂暁「申状の世界―『兼仲卿記』紙背に見る訴訟―」（同『鎌倉時代の朝幕関係』思文閣出版、一九九一年）

森川幸雄「鈴鹿郡関町出土の古瓦」（『Mie history』Vol.4、一九九二年）

山際文則「国指定史跡正法寺山荘跡の再検討」（『Mie history』Vol.17、二〇〇六年）

山崎信二『奈良国立文化財研究所学報 第五九冊 中世瓦の研究』（奈良国立文化財研究所、二〇〇〇年）

『愛知県史 別編2 中世・近世 瀬戸系』（愛知県、二〇〇八年）

『史跡正法寺山荘跡発掘調査・整備報告 昭和五六年度』（関町教育委員会、一九八二年）

『史跡正法寺山荘跡発掘調査・整備報告 昭和五七年度』（関町教育委員会、一九八三年）

『史跡正法寺山荘跡発掘調査・整備報告 昭和五八年度』（関町教育委員会、一九八四年）

『史跡正法寺山荘跡発掘調査・整備報告 昭和五九年度』（関町教育委員会、一九八五年）

『史跡正法寺山荘跡発掘調査・整備報告 昭和六〇・六一年度』（関町教育委員会、一九八七年）

『関氏正法寺山荘跡発掘調査報告』（関町教育委員会、一九七七年）

『関氏正法寺山荘跡発掘調査報告―第二次―』（関町教育委員会、一九七九年）

『関氏正法寺山荘跡発掘調査報告―第三次―』（関町教育委員会、一九八〇年）

『関氏正法寺山荘跡発掘調査報告―第四次―』（関町教育委員会、一九八一年）

『四日市市史 第十六卷 通史編 古代・中世』中世編第一章第一節〜第三節（四日市市、一九九五年）

第七章 南北朝・室町時代の亀山市域

家永遵嗣「塩貝坂合戦の背景」（『戦国史研究』二五号、一九九八年）

稻本紀昭「伊勢国における北条氏一門領」（『ふびと』三八号、一九八九年）

稻本紀昭・駒田利治・勝山清次・飯田良一・上野秀治・西川洋『三重県の歴史

県史24』（山川出版社、二〇〇〇年）

岡野友彦『ミネルヴァ日本評伝選 北畠親房―大日本国は神国なり―』（ミネルヴァ書房、二〇〇九年）

佐藤進一『室町幕府守護制度の研究 上―南北朝期諸国守護沿革考証編―』（東京大学出版会、一九六七年）

佐藤進一『日本の歴史 9 南北朝の動乱』（中公文庫、一九七四年）

森茂暁『皇子たちの南北朝―後醍醐天皇の分身』（中公文庫、二〇〇七年）

森茂暁『闇の歴史、後南朝―後醍醐流の抵抗と終焉―』（角川選書、一九九七年）

森茂暁『南朝全史―大覚寺統から後南朝へ―』（講談社選書メチエ、二〇〇五年）

山田邦明『日本中世の歴史 5 室町の平和』（吉川弘文館、二〇〇九年）

『四日市市史 第十六巻 通史編 古代・中世』中世編第二章（四日市市、一九九五年）

第八章 戦国時代の亀山市域

飯田良一「一五世紀の関氏と在地情勢」『史跡正法寺山荘発掘調査・整備報告書

昭和五五年度』関町教育委員会、一九八一年）

池享『日本中世の歴史 6 戦国大名と一揆』（吉川弘文館、二〇〇九年）

鶴崎裕雄『戦国を往く連歌師宗長』（角川書店、二〇〇〇年）

山田邦明『全集 日本の歴史 第八巻 戦国の活力』（小学館、二〇〇八年）

稲本紀昭・駒田利治・勝山清次・飯田良一・上野秀治・西川洋『三重県の歴史

県史24』（山川出版社、二〇〇〇年）

第九章 織豊政権と亀山市域

跡部信「秀吉独裁制の権力構造」『大阪城天守閣紀要』三七、二〇〇九年）

稲本紀昭「中世末・近世初期の伊勢神宮領」『ふびと』五五号、二〇〇三年）

大石学「伊勢国文禄検地の基礎的研究」『徳川林政史研究紀要』昭和五七年度、一九八三年

大西源一『大神宮史要』（平凡社、一九六〇年）

尾下成敏「清須会議後の政治過程―豊臣政権の始期をめぐる―」『愛知県史研究』一〇号、二〇〇七年)

加藤益幹「天正十年九月三日付惟住(丹羽)長秀宛柴田勝家書状について」『愛知県史研究』一〇号、二〇〇七年)

亀山隆「東海道関地蔵『御茶屋御殿』の復元」『Mie history』Vol. 17、二〇〇六年)

谷口央「小牧・長久手の戦いから見た大規模戦争の創出」(藤田達生編『小牧長久手の戦いの構造 戦場論上』岩田書院、二〇〇六年)

播磨良紀「織田信長の長島一向一揆攻めと『根切』」(新行紀一編『戦国期の真宗と一向一揆』吉川弘文館、二〇一〇年)

播磨良紀「豊臣政権と伊勢国」『四日市市史研究』七号、一九九四年)

播磨良紀「戦国・織豊期の四日市場の構造」『Mie history』Vol. 17、二〇〇六年)

播磨良紀「駒井重勝著『駒井日記』―豊臣秀次側近が記した太閤・関白関係―」(元木泰雄・松菌斉編『日記で読む日本中世史』ミネルヴァ書房、二〇一一年)

藤田達生「『神君伊賀越え』再考」『愛知県史研究』九号、二〇〇六年)

藤田達生『日本近世国家成立史の研究』(校倉書房、二〇〇〇年)

山本浩樹「小牧・長久手の戦いと在地社会の動向」(藤田達生編『小牧・長久手の戦いの構造 戦場論上』、岩田書院、二〇〇七年)

『四日市市史 第十六卷 通史編 古代・中世』中世編(四日市市、一九九五年)

『四日市市史 第十七卷 通史編 近世』(四日市市、一九九九年)

第二〇章 古代・中世の文化

笠井賢治「国人領主関氏―その被官層に関する一考察―」『Mie history』vol. 7、一九九四年)

金龍静「東海三域の一向衆と長島一揆」(同『一向一揆論』吉川弘文館、二〇〇四年)

阿部泰郎『中世寺院の知的体系の研究―真福寺聖教の復原的研究―』(平成十二年度)平成十五年科学研究費補助金(基盤研究(B)(1)) 研究成果調査報告書、二〇〇四年)

- 柴田厚二郎『鈴鹿郡野史』（名著出版、一九七三年）
- 白石虎月『東福寺誌』（思文閣出版、一九三〇年）
- 鶴崎裕雄『戦国を往く連歌師宗長』（角川書店、二〇〇〇年）
- 平泉隆房「解題（類聚神祇本源）」（『神道大系 論説編 五 伊勢神道』神道大系編纂会、一九九三年）
- 平松令三『真宗史論攷』（同朋舎出版、一九八八年）
- 矢田俊文『中世の巨大地震』（吉川弘文館、二〇〇九年）
- 山崎誠「真福寺古目録集解題」（『真福寺善本叢刊』第一卷第一期、臨川書店、一九九九年）
- 多賀神社社務所『多賀神社史』（多賀神社、一九三三年）
- 稲本紀昭・駒田利治・勝山清次・飯田良一・上野秀治・西川洋『三重県の歴史 県史24』（山川出版社、二〇〇〇年）
- 『亀山市文化財調査報告書14 慈恩寺重要文化財木造阿弥陀如来立像調査概報』（亀山市教育委員会、一九九五年）
- 『亀山市文化財調査報告書18 亀山市の仏像』（亀山市教育委員会、一九九七年）
- 『河芸町史 文化編』（河芸町、二〇〇一年）
- 『市制五〇周年プレイベント記念展示図録 国指定重要文化財 木造阿弥陀如来立像』（亀山市歴史博物館、二〇〇三年）
- 『鈴鹿関町史 上巻』（関町、一九七七年）
- 『鈴鹿関町史 下巻』（関町、一九八四年）
- 『鈴鹿市史 第一巻』第二編第二章第六節（鈴鹿市、一九八〇年）
- 『四日市市史 第十六卷 通史編 古代・中世』（四日市市、一九九五年）
- 『奈良県史 第十七卷 金石文（下）』（奈良県、名著出版、一九八七年）